

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム独自の理念を作成している。また今年目標として「近隣との交流を広げる」と掲げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日のカンファレンスの中で個々の状況やケアについて話し合い、理念の実践に努めている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	北のゆめ便りやホームページ、運営推進会議などを通して理解して頂けるよう努めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩の時の挨拶、野菜やお花を頂くなど日常的に交流がある。また運営推進会議や避難訓練、焼肉パーティなどの行事にも近所の方々が参加、除雪などのご協力も頂くなどの交流も増えてきている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の活動(町内清掃、花いっぱい活動、行事、総会)に参加するなど交流に努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域(北広島ネットサービス)の研修の参加、相談受付の看板の掲示などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	その都度職員にサービス評価の目的などを伝え、外部評価の結果改善すべきところは改善するよう努めている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施し、報告や意見の交換などを行っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡会などに参加している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会などに参加している。また運営推進会議などでも勉強会を行った。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。	研修会などに参加している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様子を見ながら改めて面談する時間を設けたり、利用者と職員2人になった時に話すように努めている。また毎日の生活の中で利用者が口にした何気ない不満の言葉を拾い上げ職員間で検討するなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態については面会時と月1回のお便りなどに個々にメッセージを書き伝えている。金銭については金銭出納表と領収書を2ヶ月に1回渡している。職員の移動などについてはお便りやホームページなどを利用して報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、ケアプラン説明時などに常に問いかけ、気軽に話して頂けるよう努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のカンファレンス、業務ミーティング、勉強会などを行っている。また日頃からコミュニケーションを図るよう努め、改めて時間を設けて話すなどしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動の場合は少人数とし、異動の時期などに配慮している。また異動しても顔なじみである事からダメージはほとんど見られていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>職員を育てる取り組み</p> <p>19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム内で講師を呼んでの研修会を行っている。また他事業所の学習会や研修会に参加するなどしている。</p>		
<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内のグループホーム連絡会の中で研修会を設けたり、参加している。</p>		
<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>夏休みの奨励、普段から休日はしっかり休むよう声をかけるなど配慮している。</p>		
<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得や段階に合った研修の紹介などに努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談を行い情報収集している。</p>		
<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談を行い情報収集し、家族の想いなどゆっくりと話を聴くよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、利用者・家族の想いや状況を確認している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者・家族に必ず見学を勧めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の出来ることを一緒にに行いながら、コミュニケーションを図り学んだり励まされたりしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などに利用者の様子を細かく伝える、状況の変化をその都度伝えるなどしている。また北のゆめ便りなどでご本人の日常生活について毎月報告している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出や外泊を勧めたり、面会時には自室でゆっくりと過ごす事ができるよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	使い慣れた家具を使用したり、写真や手紙などを飾るなどしている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、状況や状態を見ながら対応するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了の理由は入院や死亡が主で、入院中にはお見舞いなど行くが、死亡の場合は葬儀に出席する程度である。利用終了後の家族との関係は、荷物を送るなど必要以上には行っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で把握できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・本人から事前面接時や入居後に話を聴くなどして努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々観察しながら対応するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスでの話し合い、面会時に家族に意見を聴く、担当者会議などでの話し合いなどに努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化が生じた場合は、その都度話し合いプランの変更を行うなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>38 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>朝夕の申し送り、カンファレンス、連絡帳を利用し情報の共有に努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院の送迎、訪問診療の利用、早期退院に向けての医療機関との関わりなどを行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>40 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>行事のときなどのボランティア、避難訓練時には消防の協力を得ている。また民生委員に運営推進会議の参加を要請している。</p>		
<p>41 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>訪問理容の利用や近所のデイサービスの催し物への参加などを行っている。</p>		
<p>42 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>状況に応じて情報提供、相談している。</p>		
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師に日々の状況を報告、必要があればかかりつけ医に連絡するなど適切な指示を受けられる。また訪問診療、入居以前からのかかりつけ医の協力がある。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要があれば担当医に相談している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>45 看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており、状況把握・管理されている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>面会に行き、その際に病院関係者から経過報告などの情報収集を行い、早期に退院できるよう努めている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>看取りについて家族と話し合い確認している。状況に応じて担当医にも相談している。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ターミナルケアマニュアルを作成している。ターミナルケア時はそれに沿ったケアプランを作成しスタッフ全員で支援できるよう準備している。</p>		
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>面談、書面による情報提供を行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>理念に「プライドを大切に」と掲げている。また常日頃から言葉がけや対応に配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の状況に合わせた声かけ、筆談、身振り、手ぶりなどで対応するよう努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の日課の中で一人ひとりの状況に合わせ、ゆとりを持った対応ができるよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容、希望があれば近所の美容室を利用している。できる人にはその日の洋服を自分で選んで着て頂くなどの支援をしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材を切る、盛り付ける、後片付けなど個々の出来ることを行って頂いている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲酒・喫煙される利用者はいないが、おやつには手作りの他に好みを聞いて毎週普通のお菓子を取り入れるなどしている。また季節を感じるおやつ(とうきび、お汁粉など)も取り入れるように努めている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりの状況に応じて対応している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>ご本人の気分を尊重しながらも、のぼせたり、何度も洗い続けられないように気を配り、タイミング良く声を掛けるなどに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持 ちよく休息したり眠れるよう支 援している。	その時々 の状況に 合わせ安 静を確保 し、カー テンをし たりドア を半開放 にするな ど音や光 にも配慮 している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるよ うに、一 人ひとり の生活歴 や力を活 かした役 割、楽し みごと、 気晴らし の支援を してい る。	一人ひとり出来ることに参加している。(食事の下準備、後片付け、縫い物など)		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解 しており、 一人ひとり の希望や 力に 応じて、 お金を所 持したり 使えるよ うに支援 してい る。	その人の金銭管理能力を考慮しながら、できるだけ能力を生かした支援を行うよう努めている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひと りのその 日の希望 に そ って、戸 外に出か けられ るよう支 援してい る。	天気の良い日は外気にあたるよう散歩を励行、歩くことが難しい利用者に対してはエレベーターの利用等にて対応している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとり が行って みたい普 段は行け ないところ に、個別 あるいは 他の利用 者や家族 ととも に出かけ られる機 会をつ くり、支 援してい る。	個別対応は難しいが、外食・買い物などできる範囲内で対応している。また家族との外出や外泊については励行しているが、積極的な申し出が少なくなっている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙 のやり取 りができ るよう支 援をし てい る。	どちらも希望はないが、希望があった場合は支援していく。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、 いつでも 気軽に訪 問でき、 居心地 よく過 ごせるよ う工夫し てい る。	面会時間などは常識の範囲内で決まりはなく、面会時は自室などでゆっくりと過ごす事ができるよう対応している。		
(4)安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を受けるなど日頃から心がけており、拘束しないよう努めている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に見守りを行い、安全確保できるように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	状況に応じてケアプランにあげる、ヒヤリハットの作成など共有認識を持つように努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会やマニュアルの作成を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルの作成、定期的な訓練の実施、運営推進会議で地域の方々への協力の要請。地域の協力を得て近隣の方々の連絡網を作成、防災訓練への参加などの協力も得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	必要に応じて話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック、食事量、水分摂取、排泄状況、入浴・更衣時の身体状況の確認、睡眠状況の観察などを行っている。異常が見られる時は情報を共有し対応するようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	勉強会をしたり、処方箋をファイルし常に見ることができるようにしている。薬に変更があった時はそれに関する状態の観察などを行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	運動・水分・食事など便秘予防に取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施し、一人ひとりの状況に応じて対応している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材・個人の嗜好を考えながら食事検討委員による献立の見直しを行い、一人ひとりに合った支援ができるよう努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成している。手洗い・うがいの励行、インフルエンザ予防接種の実施などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板・布巾などは毎日消毒・漂白を行っている。残っている食材を確認しながら買い物は週2回、必要があれば随時行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先に花壇・プランターなどを置き、玄関にも花を飾っている。また玄関・階段には手すりを設置している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者が作成したカレンダーや花などを飾るなどしている。また生活音が常にあり、お茶の時間などには好みの音楽を流したりしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>以前は設けていたが利用する方がいなかったため現在は設けていないが、ソファや食卓などで各々が思い思いに過ごされている。</p>		利用者状況が変わったときには再度検討する。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>カーテン・蛍光灯以外は全てご本人・家族が用意したものであり、その中には今まで使用していたもの、馴染みの物、写真や手紙などがある。また様々な暖簾などをかけている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>定時に温湿度を確認し、換気など状況に合わせて行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ・浴室・廊下に手すりをつけるなどし、少しでも自立できるようかつ安全に配慮している。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>目印をつけたり、利用者の状況に合った食器を使うなどしている。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先に花を植たり、畑には少しずつ多くの種類の野菜などを植え、できる範囲内で一緒に収穫できるよう環境を整えている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>自らの想いや願いを伝えることのできる人は1/3位。他の方々については想いを掴もうと努めているがなかなか掴むことができていない。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日、ゆったりと過ごして頂いている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>お手伝いや休息、テレビを観るなどご自分のペースで過ごされているが、誘導や促しが必要な方もいる。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>喜んでいただけるような支援をするよう工夫などして努めている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>行きたい所の意思決定ができる方が少しずつ減ってきているが、家族の情報提供や協力を得て、行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>毎日のバイタル測定や定期的な訪問診療による早期発見。状況に応じて受診を勧めている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>日々の生活を変わりなく過ごせている状況から考えると、ほぼ安心して平和に暮らせていると思われる。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族との信頼関係ができており、その中で来訪時に話を聴いたり、電話での相談等に応じています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>町内会の方が行事に参加して下さったり、花などを届けるなどの訪問がある。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない 単なる挨拶だけではなく、ホームの存在を理解して下さる方が増えてきたため、1歩進んだ挨拶や会話となって来ているように思われる。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない 利用者との馴染みの関係が深まり、また経験も増えてきた事で気持ちに落ち着きが出てきたので楽しく生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 意思をはっきり表現できる人が減ってきているが、食事の面ではご本人の好き嫌いとの関係もあるのか、不満な声が聞かれることがある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない 普段から感謝やねぎらいの言葉を職員にかけて頂き、満足していると感じられる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 近隣地域との交流を今年は目標にも掲げ、力を入れている。